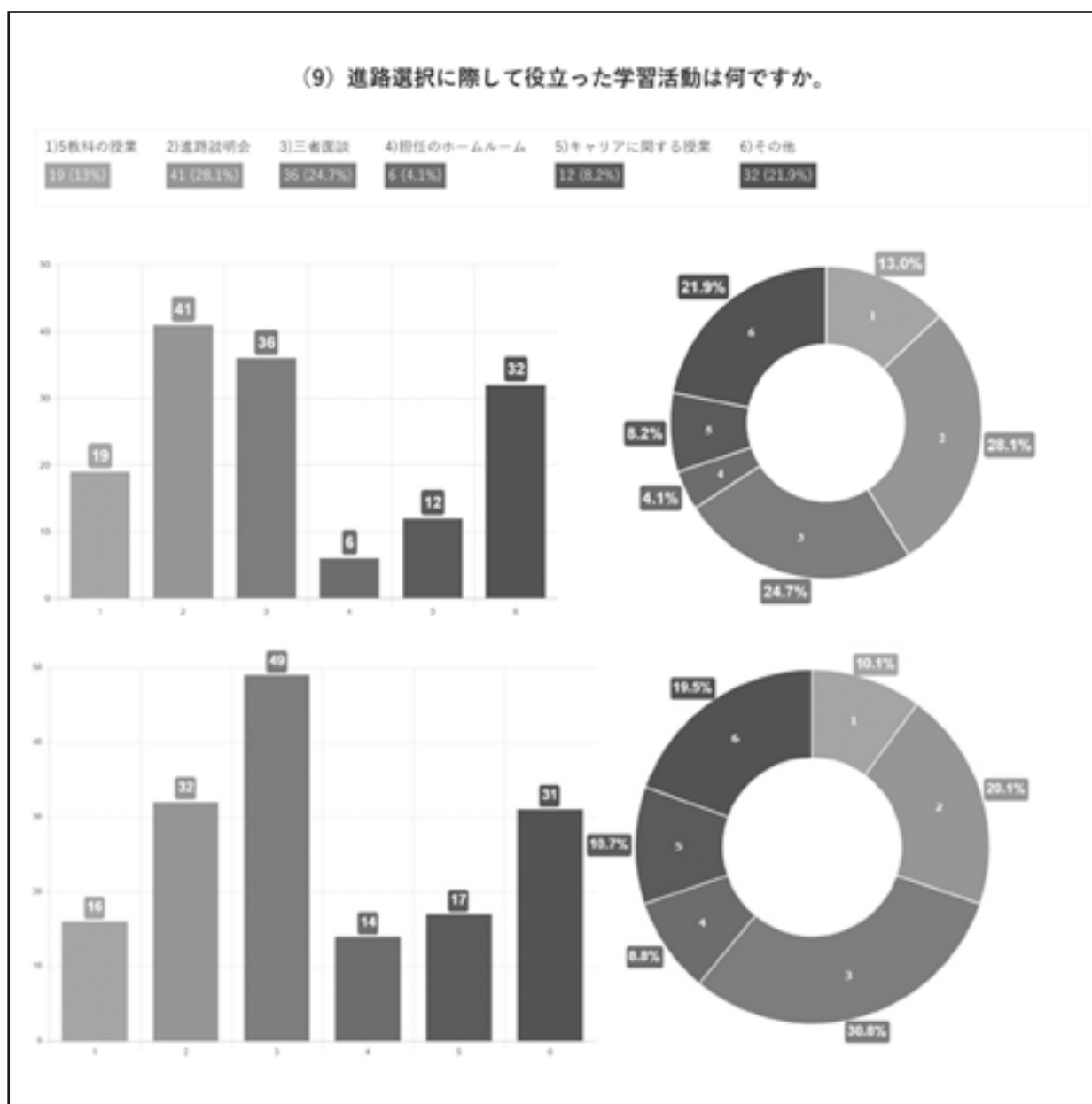


問9) 進路選択に際して役立った学習活動は何ですか。(複数回答可)

1. 5教科の授業 2. 進路説明会 3. 三者面談
4. 担任のホームルーム 5. キャリアに関する授業 6. その他 ()



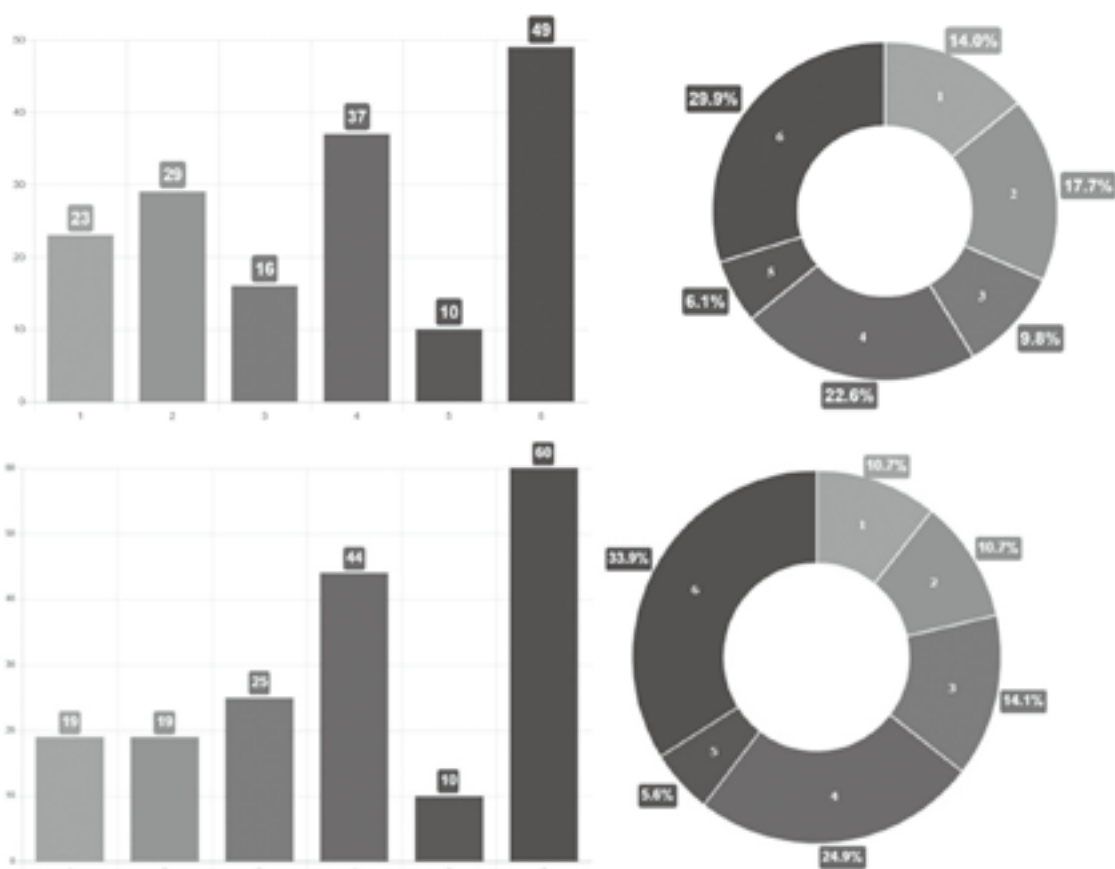
昨年度と比較すると、「三者面談」と回答する生徒の割合が増加しており、「進路説明会」の回答の割合が減少している。これらは新型コロナウイルスによる影響により、感染予防のため進路説明会等が中止もしくは延期された影響が大きいのではないかと考えられる。また、数値としては「担任のホームルーム」の割合が増えてきており、担任からの情報提供を重視している生徒が増えていることがうかがえる。それだけ、学校からの情報提供が生徒の進路選択に大きな影響を与えていることがわかるだろう。

問 10) 以下の中で、あなたが進路決定の際に最も受けてみたかった授業は何ですか。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 職業や会社について調べる授業 | 2. 社会人から話を聞く授業 |
| 3. 適性診断などの授業 | 4. 挨拶や職場マナー授業 |
| 5. 課題を調べるグループワーク授業 | 6. コミュニケーションを高める授業 |

(10) 以下の中で、あなたが進路決定の際に最も受けてみたかった授業は何ですか。

1)職業や会社について調べる授業 23 (14%)	2)社会人から話を聞く授業 29 (17.7%)	3)適性診断などの授業 16 (9.8%)	4)挨拶や職場マナー授業 37 (22.6%)
5)課題を調べるグループワーク授業 10 (6.1%)	6)コミュニケーションを高める授業 49 (29.9%)		



昨年度と比べて、「コミュニケーションを高める授業」「挨拶や職場マナー授業」の割合がさらに多く意見として挙がっており、実際に進路に向かって動き、面接や試験を受けた多くの学生がコミュニケーションや社会・職場マナーなどの授業を受けておきたかったという意見があがるほど、社会や企業で求められている教育であり、学生が望んでいる授業だということだろう。ただ、こういった意見が多いということは、そのカテゴリの授業が十分に受けられていないという意見であるともいえるだろう。今後のカリキュラムの中でコミュニケーション能力を高める授業やマナーセミナーなどの開催が必要であるといえるだろう。

問 11) 現在進路決定しなければいけない後輩にアドバイスなどあれば記入してください。

例：取り組むべき時期。具体的な取り組み方法。

自分を振り返っての意見など（自由記述式）

回答の一例

進路選択について

- ・とにかくわからないことがあったら先生や親に相談すること
- ・まずは自分が何をしたいのか、何ができるのかを知ろう
- ・進路が決まらない場合、興味のあるほうへ進むほうがよいのでは
- ・進路について調べるのはとにかく早いほうが良い、手遅れになることも多い
- ・少なくとも3年の夏までに決めないと相談の時間がもてなくなる
- ・2年生の夏休みをどのように使うのがカギ
- ・動くなれば早く、すると問題点が見えてきてすぐ改善に動ける

進学について

- ・オープンキャンパスに行けるなら行こう、いろいろ教えてくれる
- ・インターネットで調べるより直接オープンキャンパスに行こう
- ・試験対策は早ければ早いほど余裕が生まれて進路選択に選択肢増える
- ・受験の手続きに関しても早めに調べておくこと
- ・勉強に関してはとにかく時間が必要なので早めに取り組んでおくこと

就職について

- ・仕事はいくらでもあるは間違い 仕事はあっても自分にできることは少ない
- ・とにかく仕事に就くためにコミュニケーション訓練が必要
- ・社会人としての必要なことを先輩方に聞こう
- ・自分に苦手なことであっても頑張る努力を見せよう
- ・自分の考えと世間の考えのズレを知ったほうがいい
- ・とにかく何があっても周りのせいにせず自分で乗り越えようと努力をすること

今回の結果から、とにかく早く進路選択のための行動を行うことを勧める回答が多く見られた。新型コロナウイルスによる影響により、行動したくてもできなかったという想いを持つ学生が多いことも一因と考えられるが、少なくとも2年生のうちには進路を決めておかなければ、いろいろな取り組みに遅れが生じてしまうことを伝えたい学生が多いことが推察できる。また、自分の認識と世間のズレに関しても理解しておくほうがよいと勧める意見が多く挙がった。必要な能力や知識などについても、本当に求められている内容とズレがないかなどを客観的な視点から見ていく必要を伝えたいのではないか。

また進学に関しては、進学先を調べるのであればとにかくオープンキャンパスや学校説明会へ行って情報収集を行うことを勧める意見が多かった。直接学校へ行くことで得られる情報に価値があったという学生が多かったことが理由として挙げられるだろう。そのほか、試験の日程や手続き書類の確認に関しては早めに行動することを勧める生徒も多く見られた。

就職については、仕事や求人は多くあるが、自分ができる仕事、やりたい仕事などで絞っていくとかなり数が少なくなり、選り好みはできない。だからこそ早めに調べてどのような仕事があるのかを検討することで、多くの情報を得られることを伝えたい学生が多く見られた。また、社会人として必要な知識や技術に関しては先輩や先生に相談するように勧める意見も挙がった。

これらのことから、3年生になったからこそ学んだことを2年生に伝えたいと意見が多く挙がったことから、3年生が下級生にそう言った意見や考えを伝える機会を高等専修学校の中で設けることで、早めの進路選択に動ける学生が増えるのではないかと考える。

総 括

1. 進路アンケートの集計結果からの考察

これらの調査結果から専修学校生が社会人として定着するために専修学校におけるカリキュラムや指導方法について必要とされる項目を考察する。

○新型コロナウイルスによる学生生活や進路決定への影響

新型コロナウイルスによる感染予防対策や非常事態宣言による自粛等により、学生生活に大きな影響を与えた。学校が休みになり、職場体験や授業数の減少等により進路決定への影響が大きく見られる。新型コロナウイルスによる影響の終息する時期が不明のため、今後の高等専修学校でのカリキュラムにおいて、感染予防対策を講じた講習や、職場体験等を検討していく必要がある。

○社会人として必要な知識やマナーの教育

多くの学生が社会人として社会に出る際に十分なマナーや知識を習得する必要がある。報告連絡相談やあいさつ、わからないことをメモに取るといった基本的なことから教育し、そういったマナーや知識が企業や社会が求めていることだと学生に理解してもらい、自ら率先して調べ学ぶ意識を身に付けてもらうことが必要と考える。特に実践的なカリキュラムを形成し、企業や社会が求める能力を向上させるような取り組みが必要だろう。

○キャリア教育の徹底

「働くこととは何か、働くことがなぜ必要なのか」といった職業キャリア教育をさらに徹底することで、社会人としての考え方や知識を身に付け、働くことへの意欲や目的を強く持ち続け社会人として定着できるようにする。そのために社会人としての先輩や職業人からの話を聞くようなカリキュラムを持つことで、より社会人として定着できるスキルを学ぶことができると考える。

○コミュニケーション力を身に付けるカリキュラム

多くの学生がコミュニケーション能力に不安を抱えており、企業もコミュニケーションに関する教育を求めていることがわかった。グループワークやディスカッションなどを実施し、コミュニケーションに関する知識や技術を習得する機会が必要である。また、社会人として必要な必須スキルとして、職場体験や合同企業説明会などでたくさん対話を必要とするカリキュラムを導入することが効果的であるだろう。

○定期的な対話を行う

学生7の不安や気持ちは常に変化し続けており、また新型コロナウイルスによる影響への不安も影響して、精神的な不安が大きいだろう。学生と定期的な面談を行いながら、常に学生の状態を把握することが重要である。進路に関することや、こういった不安をもちそれを改善するためにどのような教育が必要であるか常に把握し続けることが重要である。対話の機会が増えると、学生側から自分の不安や質問を投げかけやすい関係性を築くことができるだろう。

○職業体験講座（インターンシップ）の実施とフィードバック

職業体験講座（インターンシップ）を実施することで、学生自身で実際の職場に必要な知識や力を把握することができ、企業側からのフィードバックや学校での振り返りを行うことで、本人の意欲も向上することが期待できる。また、企業側からの意見を取り入れることで学校での教育に対しての改善点が見えてくるだろう。しかし新型コロナウイルスの影響を考え、体験講座の内容や実施方針については検討の必要がある。

○いつでも相談をおこなうことができる環境づくり

カリキュラムの中での授業外での意見や質問をいつでも行える環境を作る必要があるだろう。学生が知りたい情報を知りたいときに知れる環境づくりを実施することで、学生の進路選択や不安解消に役立つと考えられる。

こういったポイントを踏まえ、高等専修学校生が社会人として定着し、地域産業の中心として活躍できる人材として社会に貢献できるよう、スキルアップのためのカリキュラムを考察し作成していく。

(様式第 16 / 委託事業の成果の標記)

委託事業の成果の標記

委託事業に係る成果報告書の「委託事業の成果の表記」については、次によるものとする。

< 成果報告書 >

本成果報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、大阪技能専門学校が実施した令和 2 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

< その他のすべての成果物 >

本成果報告書科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、大阪技能専門学校が実施した令和 2 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果物です。

文部科学省委託事業
2020年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
学びのセーフティーネット機能の充実強化
高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

様々な問題を抱える高等専修学校生が社会人として
定着するための地域ネットワークシステム構築

成果報告書

学校法人神須学園 大阪技能専門学校
令和3年3月

連絡先：〒596-0833 大阪府岸和田市神須屋町413
学校法人神須学園 大阪技能専門学校
TEL：072-427-7600 FAX：072-428-3300

●本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます